

人生の根幹 ～ 読書遍歴 ～

2025 年 4 月 25 日筆者は、病理医としての定例の病理組織診断業務を担当した。

【『病理学』は『形態』、『起源』、『進展』などを追求する学問分野である。】&【病理組織診断は、『風貌を診て、心まで読む＝人生の根幹を追求する＝教育』でもある。顕微鏡観察は、『がん哲学＝癌細胞の病理と人間社会の病理＝生物学と人間社会』の原点である。病理学者が『がん哲学外来』（画像）を創設出来たのはここにある！】を、何時も講演で語る。

4 月 25 日【南原繁研究会「2025 年度の総会及び研究会」】に Zoom 参加した。

プログラム

読書会 著作集三巻 報告者 村井洋

「自由主義の批判的考察」14～47 頁

「新ヘーゲル主義の社会哲学」162～176 頁

自由発表 南原研図書 20 『政治と宗教』所収

篠崎恭久「宗教教育と公共性」 発表者 今井隆太

鈴木英雄「東大教養学部教育」 発表者 大園誠

昨年（2024 年）『南原繁（1889-1974）研究会創立 20 周年 & 南原繁没後 50 周年』で、筆者は【南原研究会の活動を振り返って：創設期の思い出を中心に】の発表の機会が与えられた。この度（2025 年）【『南原繁研究会創立 20 周年 & 南原繁没後 50 周年』『戦争と平和——南原繁再考（その 2）』】が発行される。2004 年にスタートした南原繁研究会【初代代表：鴨下重彦先生（1934-2011：東京大学名誉教授、国立国際医療センター名誉総長）、第 2 代代表：加藤節先生（成蹊大学名誉教授）】の 3 代目の代表を、筆者は 2019 年に仰せつかった。

19 歳の時 京都で東大法学部の学生時代に南原繁から教わった人物に出会い 南原繁の全集を読み、新渡戸稲造（1862-1933）の全集も購入した。南原繁は、内村鑑三（1861-1930）に深い影響を受けており、内村鑑三の全集も読むようになった。新渡戸稲造と内村鑑三から強い影響を受けた矢内原忠雄（1893-1961）の全集も購入したものである。筆者の読書遍歴は【南原繁 → 内村鑑三 → 新渡戸稲造 → 矢内原忠雄】の連鎖反応である。

がん哲学外来とは・・・



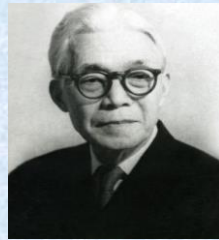
吉田富三



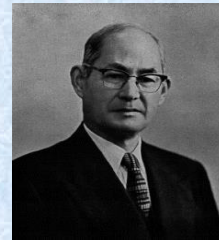
新渡戸稻造



内村鑑三



南原繁



矢内原忠雄



樋野興夫

吉田富三のがん学と、南原繁の政治哲学

2008年 がん哲学外来 開設